スポーツコンプレックス推進事業（まちづくり連携支援事業）

“スポーツの力で未来をつくるまち NAGANO” 推進事業

2026年(令和8年)3月

一般社団法人 長野市開発公社

1.事業のビジョン等

(1)事業の背景

スポーツのハード・ソフト面での環境(土壌)が全国的にもトップレベルであることは勿論のこと、"スポーツに対する受容性の高さ"、歴史的・文化的背景からくる"共創・協働力発現のポテンシャルの高さ"が群を抜いていると考えられ、"長野市だからこそ"スポーツの力・価値が発現できる可能性が高いと考える。
南長野FBFの開場や、ビッグハットの経済価値拡張可能性が顕在化したことを機運に、各エリア活性化の可能性が高まっている。

長野市がスポーツを軸としたまちづくりに取り組む理由

1. 量・質共に整っているスポーツ環境

- ビッグイベントでも活用できる大規模施設の複数保持
- 全国比でも多いるスポーツ施設数
- 夏場・冬場でバラエティーに富んだスポーツが楽しめる自然環境の保持

2. 多種目に渡るコンテンツホルダーの存在

- サッカー、バスケットボール、フットサルに至る複数競技の地元トッププロチームの保持(住民、あらゆる産業とのハブ機能になり得る受け皿の存在)

3. オリンピックタウンとしての高いブランド力

- ナショナルトレーニングセンター強化拠点のエムウェーブ
- 全国中学校スケート大会・国際大会など、大規模大会の定期開催

4. スポーツ志向の高い住民性

- 極めて高い市民のスポーツ実施率(スポーツに対する受容性の高さ)

5. 歴史的背景・五輪経験からくる高い共感・協働力

- 多様な人を受け入れる高い共生意識
- "個々人"のおもてなし気質、気概からくる高いボランティア行動率、多くのコミュニティの存在

6. 上質な学びの体験を備えた市民の存在

- オリンピック・パラリンピックを経験した都市・市民だからこそ具体化できる体験イメージ(準備から実施までの全てのプロセス経験：協働の記憶と素養・経験値)

南長野運動公園エリア、東口エリアにおけるまちづくり機運の高まり

- **南長野運動公園フットボールフィールド(南長野FBF)の開場**
  28年度の国スポ開催を見据え、天然芝1面・人工芝2面と付帯施設を有する施設を整備予定。AC長野パルセイロのホームであるUスタも隣接していることから、サッカーをハブとした南長野運動公園の利活用と新たなコミュニティ形成の可能性がある。



- **東口エリア、ビッグハット経済価値拡張可能性の顕在化**
  大規模スポーツ施設等適正評価業務を経て、ビッグハットは長野市大規模施設の中でも好立地で経済的なポテンシャルを有しているが、グリーンシーズンの土日は稼働していない日がある且つ、アイスシーズンは市民利用・大会など公益性の高いイベントを優先しているため、経済価値の最大化ができていないことが分かった。ビッグハットでのコンサート、展示会、スポーツ興行等をハブに人を呼び込み、回遊させることで、東口エリア活性化の起爆剤になる可能性がある。

1.事業のビジョン等

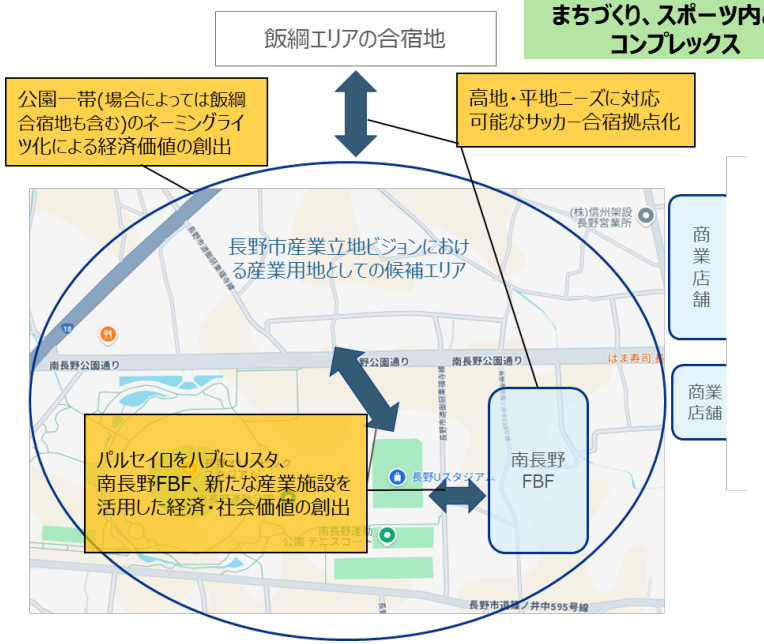
(2)目的・ありたい姿・構想

【南長野運動公園エリア】
ありたい姿：南長野運動公園の利活用と新たなコミュニティの形成

南長野運動公園は、1998年に開場し、天然芝1面、人工芝2面のサッカーグラウンドの開場が2028年度に予定されている。そのため、当公園を核とした賑わい・コミュニティ形成をありたい姿とおき、その実現のための4つの要素について、パルセイロ等のステークホルダーを巻き込みながら解像度の高い計画に落とし込む。

① 市民のサッカー利用
② 大会・合宿誘致
③ パルセイロの拠点化
④ 市民の利用促進

まちづくり、スポーツ内とのコンプレックス



【東口エリア】
ありたい姿：ビッグハットを核とした東口エリアの活性化

ビッグハットを核とした人の流れ、賑わいを創出し、長野駅周辺の土地区画整理事業を将来に活かしたまちづくりを行う。
その実現のため、下記3つの要素について、①を意識しつつ、②の複合化と③の複数種目利用を中心に、ステークホルダーと連携を行い、解像度の高い計画に落とし込む。

① 東口全体の活性化・エリア整備方針
② ビッグハットの複合化（コンサート等の複合利用）
③ ビッグハットの複数種目利用（他スポーツでの利用可能性）

異分野、スポーツ内とのコンプレックス



1.事業のビジョン等

(3)関連するステークホルダー

長野市	ステークホルダーとの調整	長野県アイスホッケー連盟	実証事業の実施
一般社団法人長野市開発公社	構想とりまとめ	シンコースポーツ㈱	施設施策の推進
㈱長野パルセイロ・アスレチッククラブ	実証事業の実施	有識者(政策懇話会出席者)	知見・示唆の提供
		他、施設利用者(興行主等)	ニーズ情報の提供

(4)官民連携協議会

参考URL：スポーツを軸としたまちづくりのための政策懇話会 - 長野市公式ホームページ

協議会名称	スポーツを軸としたまちづくりのための政策懇話会
協議会の目的・目標	様々な分野の有識者の方々から、専門的かつ多角的視点から意見を聴取し、各施策への反映や新たな方策の検討を行い、速やかな方針と施策の決定、継続的な政策展開に繋げていくこと。

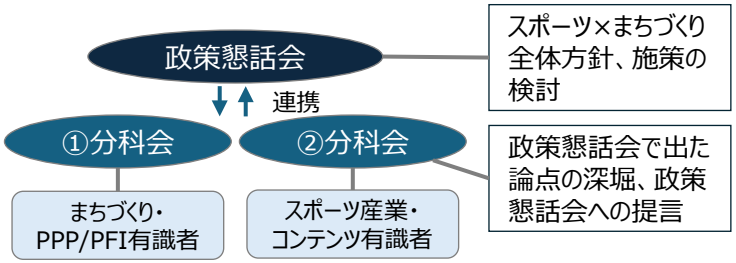
政策懇話会

#	日時	検討事項	意見、決定事項等
1	R7.8/4	• スポーツと観光の融合による地域活性化策 • 大規模スポーツ施設の利活用のあり方・方針 • プロスポーツチームとの共創施策	• 市民への経緯説明・理解の必要性、推進体制検討結果を既存PJとアライン
2	R7.9/16	• 各プロジェクトにおけるプロデュース機能 • 官民連携による運営の在り方、自治体の担うべき役割、ヒトモノカネが集まるスキーム、方法論	• 長野市主導でまちづくり方針・構想、および地元企業の投資規模を明示化の必要性、既存PJとアライン
3	R8.1/19	• 北部・中心部・南部エリアのスポーツ×まちづくりの中核施策実現に向けた課題感、民間活力を取り入れた推進方法	• ビッグハットの方向性について、長野のレガシー、ストーリーを生かした施設・コンテンツ創りの必要性

分科会

テーマ	• 意見、決定事項など
①長野運動公園の利活用と新たなコミュニティの形成	• パルセイロ成長ストーリーを軸にした来場者体験の検討、スポーツへのフリーアクセス性向上、長野市特性、南長野の役割理解の重要性 • 地域公共財としての存在として、サッカーに限らず様々な分野でのバリュー創出、発信の重要性
②ビッグハットを核とした東口エリアの活性化	• 長野市内での誘致体制の構築、エンタメ施設を横ぐしで管理する顧客データベース、施設管理者での営業機能の構築

協議会全体像と各機能



2.スポーツコンプレックスの実現・発展に資する取組等 (南長野運動公園エリア)

(1)実証

■ **実証の目的：**
施設・選手をハブとした施策の有効性検証

- 「施設や選手をハブとした施策」や「施設を活用したにぎわい創出施策」は、施設や選手(チーム)の認知・関心を高めるか、また、地域コミュニティの醸成を促すのかを検証。

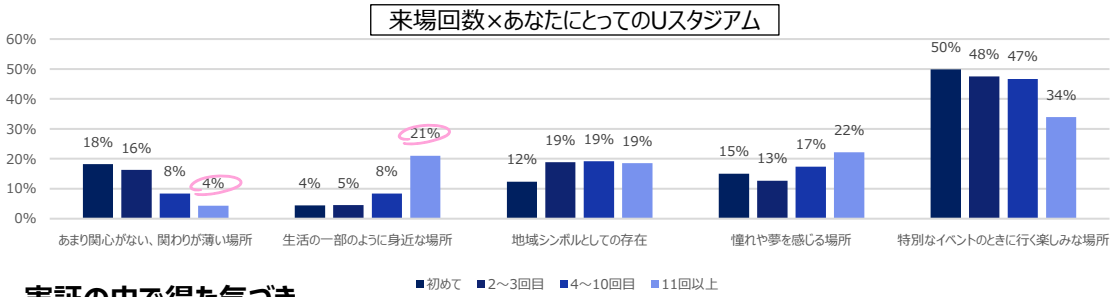
■ **実証方法：**
ドリームスクールデーでのアンケート調査

- 長野市内の小・中学生にスポーツ観戦体験の場の創出を目的に、長野市と協賛企業で実施しているイベント。
- 授業の一環として、市内小中学生約4,000人をサッカー長野パルセイロ・レディースの試合に招待。長野市教育委員会と連携を取り、子どもや学校、イベント関係者等に対して、電子的にアンケート調査を実施。

(2)効果検証

■ **実証結果**

- アンケート参加者の来場回数ごとに、施設の認知・関心度を検証したところ、来場回数が多いほど、認知・関心が高くなる傾向があるということが分かった。また、来場が多いほど、生活の一部のような存在となり、交流機会が生まれ、コミュニティ形成に寄与していることが分かった。



■ **実証の中で得た気づき**

- **施設、チーム、選手との交流機会のニーズ**
  小学生は、「Uスタで快適で楽しいスポーツ観戦をしたい」というハード面のニーズと、「パルセイロ選手との交流イベントを体験したいというソフト面のニーズが高く、パルセイロ拠点化の効果が期待できると想定。
- **地域コミュニティ、教育、健康の場としてのニーズ**
  小学生のハード改善ニーズとしては観戦環境に次いで、Uスタで友達と勉強、遊んだりする場としての利用が多く挙げられた。また、来場者数が多い層はUスタが生活の一部のような身近な場となっており、地域コミュニティ、教育、健康の場を起点として様々な領域の価値を出せる可能性があると想定。

■ **パルセイロ拠点化計画への反映**

- パルセイロ選手、Uスタ・南長野FBFでの交流ニーズがある事が確認できたため、それらをハブとして市民と交流する機会を計画に反映。
- アウトカムとしては、施設来場者数の増加、サッカーを中心としたスポーツへの関心度を想定。

■ **公園全体でのマネジメントによる市民利用への活用計画への反映**

- 施設を活用した地域の賑わい、コミュニティを創出するような取り組みを計画に反映。
- 施設を活用した健康促進に資する取り組みを計画に反映。
  (教育についてはパルセイロ拠点化側での取り組み検討を想定)
- アウトカムとしては、施設来場者数、スポーツ実施率を想定

2 .スポーツコンプレックスの実現・発展に資する取組等(東口エリア)

(1)実証

■ **実証の目的：ビッグハットのアクセス性、周辺での滞在可能性、広域との連携の3点の検証を行うこと**

- ①アクセス性：徒歩、シャトルバス、自家用車等、様々な方法で来訪できることを検証。
- ②周辺での滞在可能性：アリーナ周辺での滞在を可能にして、周辺滞在の満足度を上げられていることを検証。
- ③広域との連携：善光寺を中心に、長野市がこれまで実施してきた施策により、どれだけの周遊に繋がっているかを検証。

■ **実証方法：全日本アイスホッケー選手権大会でのアンケート調査**

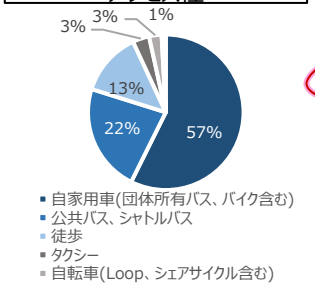
- 12月18日(木)～21日(日)に若里多目的スポーツアリーナ ビッグハットで開催された第93回全日本アイスホッケー選手権大会(A)にて来場した方にアンケート調査を実施。

(2)効果検証

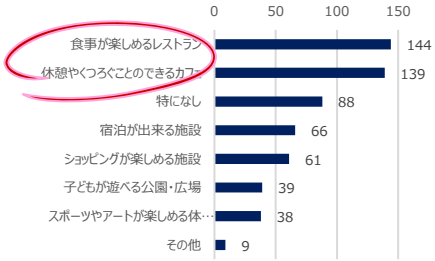
■ **実証結果**

- アクセス性については、自家用車以外にも、バス・徒歩での来場が見られた。周辺での滞在可能性としては休憩やくつろぐスペース、レストランの設置で満足度向上が見込めると想定。広域連携については、「善光寺」が選ばれている一方で、「どこにも立ち寄ってない」が最も多い。

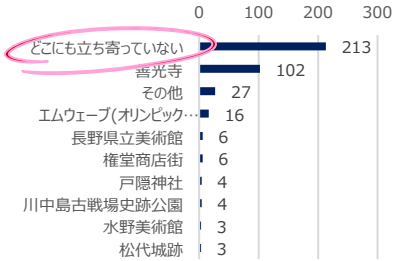
アクセス性



周辺での滞在可能性



広域との連携



■ **実証の中で得た気づき**

- **各エリアへのアクセス改善**
  近隣、広域共に、手軽にアクセスできるような仕組みが必要。
- **ビッグハットもしくは周辺に滞在できるようなハード・ソフト整備ニーズ**
  ハード面ではアリーナ内でのカフェ・レストラン、周辺の飲食店誘致、近隣で立ち寄れる場所の整備。
- **既存コンテンツの磨き上げ・認知度向上、新規コンテンツ開発ニーズ**
  ハード面では戸隠など広域連携による新周遊拠点の整備、ソフト面では興行主との連携による宣伝などの仕組み整備が必要。

■ **東口の活性化計画への反映**

- アクセスについてはビッグハット周辺、広域施設との連携に合わせて、送客の仕組み改善を計画に反映。
- 飲食店をはじめとしたビッグハット周辺のハード、ソフト機能に関するニーズがある事がわかったため、それらの整備、滞在時間延伸の検討を計画に反映。アウトカムとしては、ビッグハットの興行収入増加。
- ビッグハットからの立ち寄り先不足が確認できたため、ビッグハット周辺施設との連携体制強化を計画に反映。アウトカムとしてはビッグハットと周辺施設の連携数増加。

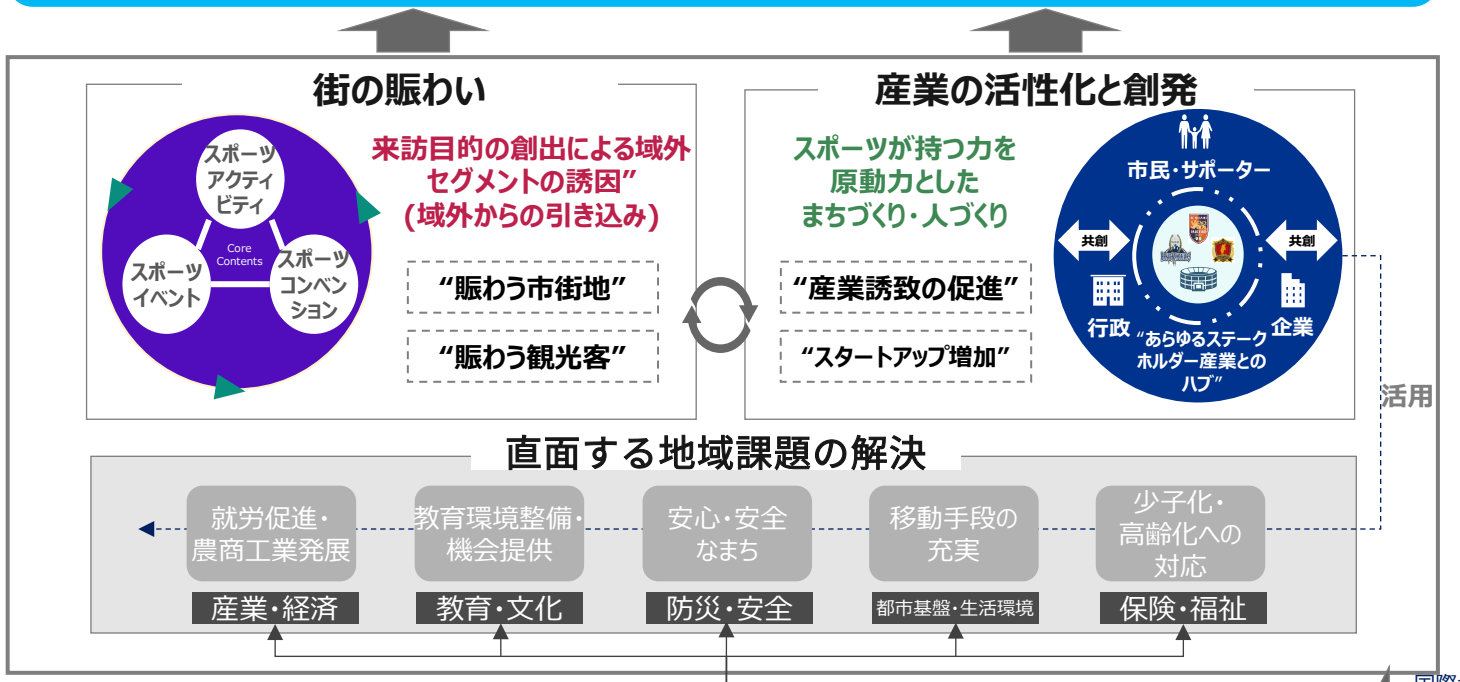
3.今後の展望

(1)将来的なビジョン

目指すもの
「日本屈指のスポーツタウン」

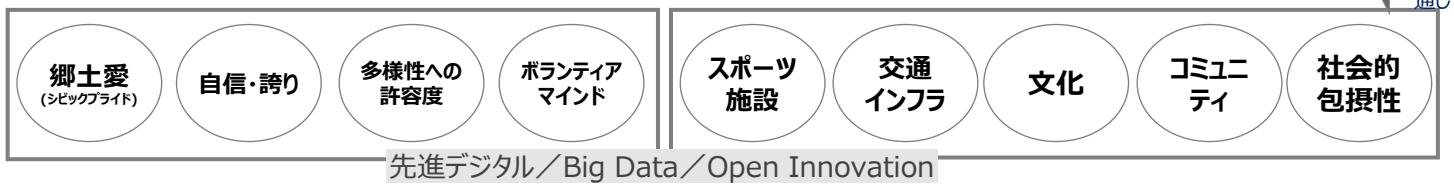
“スポーツの力で未来をつくるまち NAGANO”
– “国際的なスポーツ大会の経験（DNA）と環境”、”長野市民の特性”を繋ぎ・創る未来 –
市民が真の豊かさや幸せを実感し、いきいきとチャレンジをしながら、長野市への誇りを胸にWell-beingを体現できるまち

得られるもの
「日本屈指のスポーツタウン」で実現したいテーマ



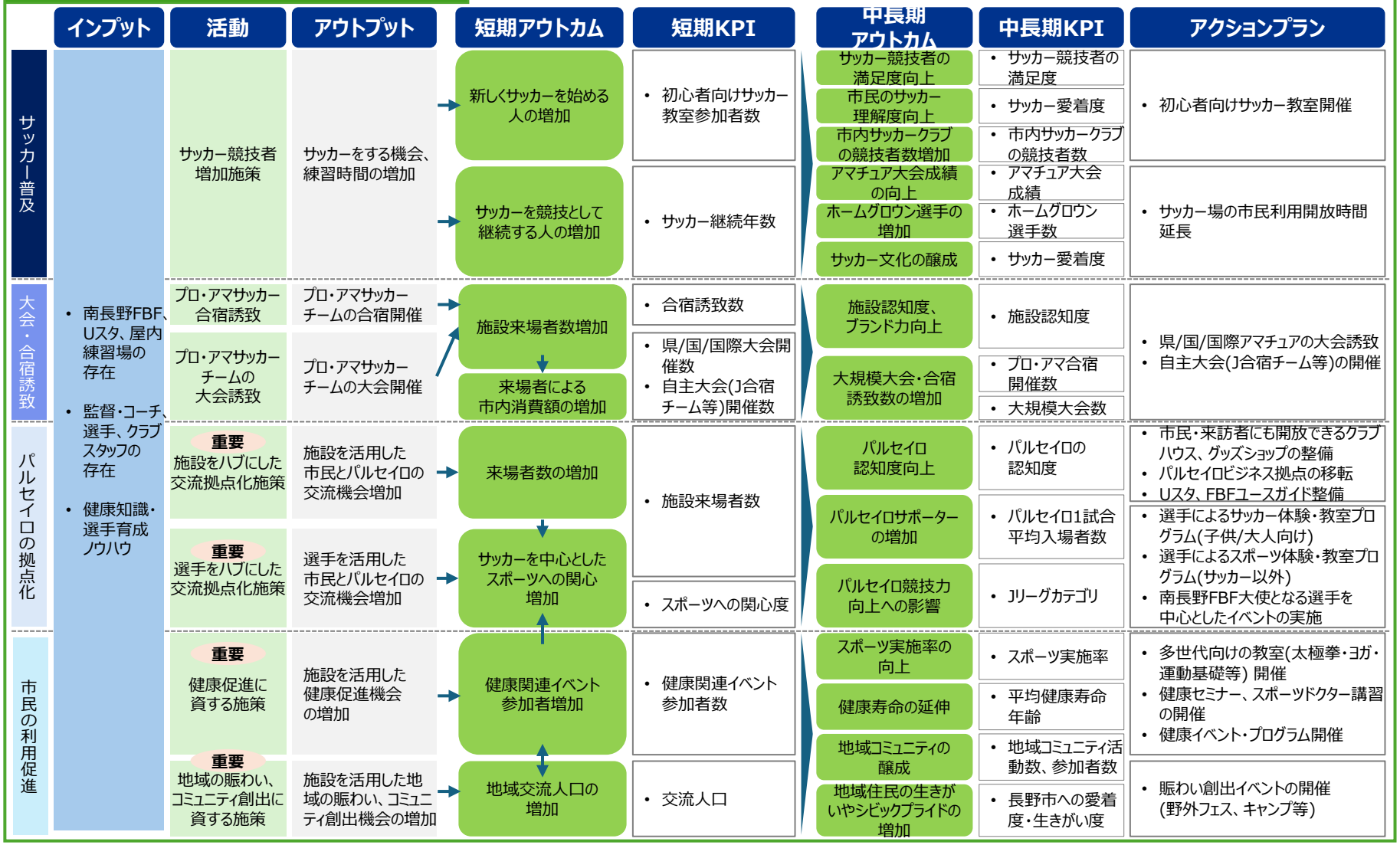
“DNA”=本物に触れた経験・上質な学びの体験
政策への応用
形成・発展したハード・ソフトアセット
国際大会での経験を通じて獲得

支えるもの
「日本屈指のスポーツタウン」を実現するための原動力(=強力な土壌)



3.今後の展望(南長野運動公園エリア)

(2)中長期的な構想・行動計画



3.今後の展望(東口エリア)

(2)中長期的な構想・行動計画

東口の活性化

インプット	活動	アウトプット	短期アウトカム	短期KPI	中長期アウトカム	中長期KPI	アクションプラン
複合化／複数種目 ・コンサート開催実績 ・コンベンション開催実績 ・スポーツ興行開催実績 ・オリンピックタウンとしての知名度 ・ビッグハットの存在 ・他施設の存在 ・バスターミナルとしての東口 ・長野市や開発公社など多様なステークホルダーの存在	重要 コンサート/展示会/スポーツ興行等の誘致	・コンサート/展示会/スポーツ興行等の増加	ビッグハットおよび周辺施設の来場者数増加	・ビッグハット来場者数	東口活性化（東口周辺施設への来場者増加・消費拡大）	・ビッグハットでの大規模イベント(2,000人以上)開催日数 ・長野市観光入込客数 ・長野市一人当たり観光消費額	・ターゲット特定：コンサートはフェスティバル、ファンミーティング、地方創生関連、スポーツはバスケ、バレーがターゲット ・共同事業体も視野に入れた誘致・運営体制の検討
	重要 ビッグハット周辺の滞在時間延伸の検討	・ビッグハットおよび周辺施設において滞在できる施設数の増加					・ビッグハット周辺の施設建設可能な土地の整理(駐車場等) ・ビッグハット周辺における建設ハードルの整理 ・ビッグハット周辺の人流分析 ・隣接施設(若里文化センター等)の利用状況整理
	(東口からビッグハット)来場バス整備	・東口とビッグハットを繋ぐ来場バス本数が増加する	来場バス整備によるビッグハットおよび周辺施設の来場者数増加	・来場バス本数	長野市内の周遊機会の増加	・各施設の来訪者数	・現状のビッグハット行きバスの状況確認 ・来場バスの増便案(小型直行シャトル便)の検討 ・今後の循環・路線バスの検討
	(東口からビッグハット)徒歩導線整備	・東口周辺および東口からビッグハットまでの人流増加	東口周辺およびビッグハットまでの道のりでの店舗数増加	・東口、ビッグハット周辺の総店舗数(既存店舗＋新規店舗)			・現状調査(例：徒歩ルートの人流調査、ルート上の小売店舗数調査等) ・徒歩ルート整備計画
	ビッグハットを中心とした各イベントと長野市観光名所の連携	・ビッグハット周辺施設、イベントとの連携体制強化	ビッグハット来場者の長野市観光名所に対する認知度増加	・ビッグハット周辺施設のPR件数	長野市の活性化	・長野市観光入込客数	・各興行広告サイトの周辺施設PR状況整理 ・ビッグハット周辺施設の連携先調査

3.今後の展望(各KPI)

(2)中長期的な構想・行動計画

KPI		(参考) 現状実績	短期	中期	長期	伸び率 (現状と長期の比較)
		2024年 (R6)	2026年 (R8)	2028年 (R10)	2030年 (R12)	
共通	スポーツ実施率	• 58.8%	• 60.0%	• 62.5%	• 65.0%	• 111%
南長野運動公園エリア	施設来場者数	• 37.3万人	• 38.3万人	• 48.3万人 2027年10月から南長野FBFが一般利用予定	• 52.3万人	• 140%
	AC長野パルセイロ1試合当たりの平均入場者数	• 4,025人	• 4,500人	• 6,000人	• 8,000人	• 199%
東口エリア	ビッグハット来場者数	• 17.6万人	• 19.1万人	• 22万人	• 40万人	• 227%